

母性看護学実習における学生の褥婦に対する心理的理解の様相

- 褥婦の心配事への学生の関わりに焦点を当て -

○黒澤範子 衣川さえ子
前. 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 看護学科

研究目的

母性看護学実習で褥婦の心理的な理解に苦慮している看護学生が多いため、学生がどのように褥婦の心配事を把握するのかに着目して心理的理解の様相を明らかにし、学習支援のあり方を検討する。

研究方法

母性看護学実習を終了したA大学3年次看護学生20名を対象に、平成29年1月～2月に約30分間の半構造化面接を行った。事前に、実習体験を紙面で振り返り、心配事をどのように把握したかとその支援について質問した。面接内容は録音し、逐語録を作成した。分析は逐語録を作成後、質的統合法(KJ法)の記述単位の要約方法を参考に、意味ある記述単位を取り出し、見出しをつけカテゴリー化した。本研究は、所属大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

結果

- 1) 学生の実習期間中の受持ち状況は、褥婦と新生児2組であった。
- 2) 褥婦の心配事に対する把握の仕方は、4カテゴリーで、【褥婦が示す言動・看護者とのやり取りから心理状態を読み取ろうとする】【出産経験と関連づけて心配事の程度を判別する】【負担感を考え聞くことを躊躇する】【心配事の聞き方が分からない】であった。
- 3) 褥婦への心配事に対する支援は4カテゴリーで、【褥婦の訴えをひたすら聞く】【身体症状の軽減につながる助言をする】【気分転換の機会やケアを提供する】【支援内容が定まらない】であった。
- 4) 学生は、褥婦への関わりの効果を、【身体症状の軽減】【今後の行動変容に期待】【心理的な理解不足による支援の乏しさ】と評価していた。

考察

結果から、学生の褥婦の心配事に対する把握と褥婦の心配事に対する支援の様相が明らかになった。学習支援として、教員は、褥婦の心配事への関わりが心理的負担を与えるという危惧を持つ学生に対し、ケアの提供をしながらの聴き方や相手の反応に応じた聴き方等のモデルを示し、反応の解釈を確認する必要性が示唆された。

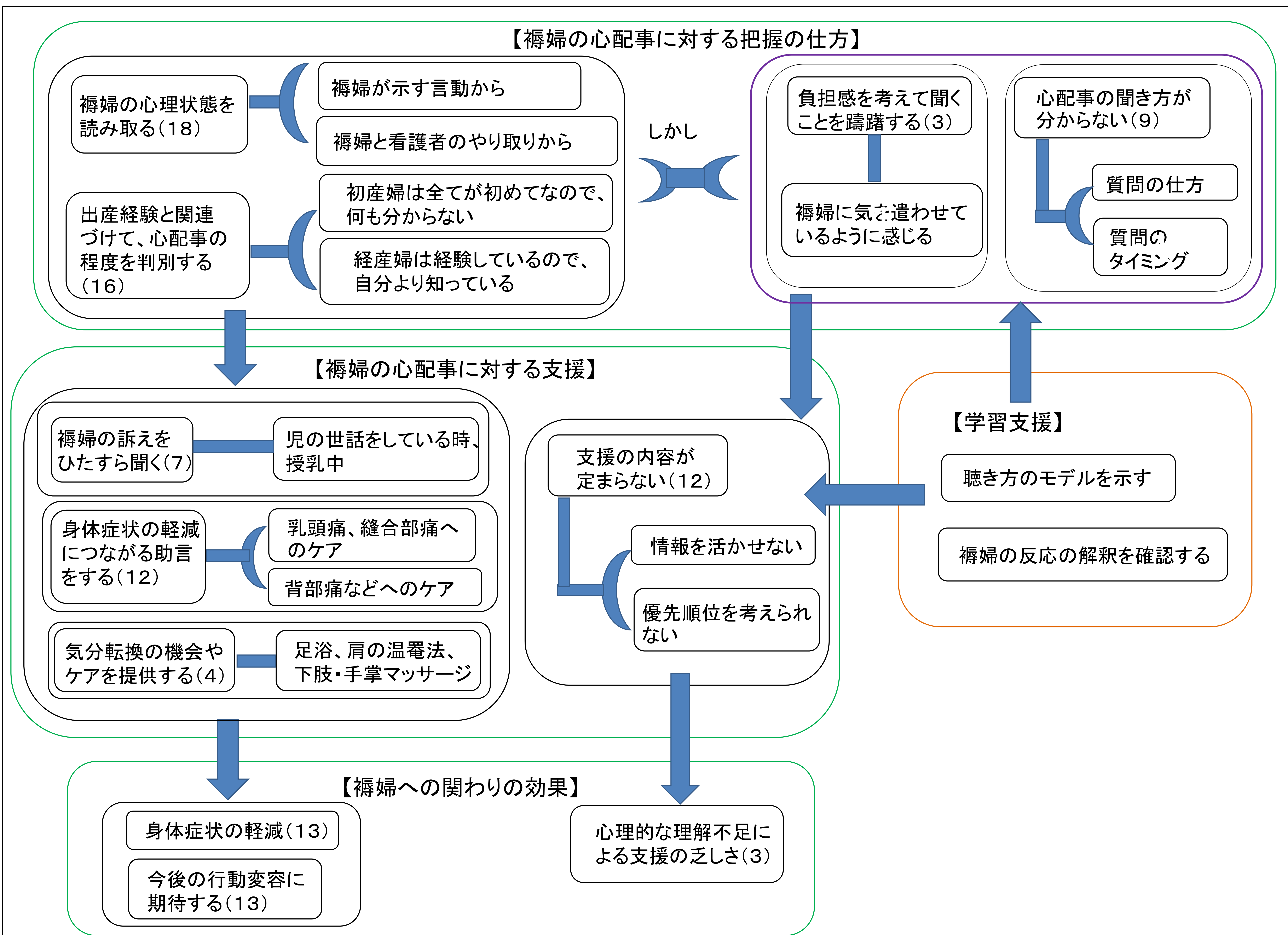


図. 褥婦の心配事に対する把握の仕方、支援内容とその効果の概要

()内の数値はコード数を示す